

平成 28 年 5 月 7 日

## 平成 27 年度学校関係者評価委員会報告

学校法人平成医療学園 平成医療学園専門学校  
自己評価委員会・学校関係者評価委員会

学校法人平成医療学園 平成医療学園専門学校 自己評価委員会 学校関係者評価委員会は、平成 27 年度自己評価報告書に基づき、学校関係者評価を実施し、以下の通り報告いたします。

### 記

#### 1 学校関係者評価委員

- ① 勝浦 政夫 (大阪鍼灸マッサージ協同組合 理事長、全国柔整鍼灸協同組合 保険局局長)
- ② 松本 尚純 (貞友会[同窓会] 副会長)  
(事務局)
  - 石田 武 (平成医療学園専門学校 名誉校長)
  - 中谷 裕之 (平成医療学園専門学校 統括長、全国柔整鍼灸協同組合 法制局長)
  - 北野 吉廣 (平成医療学園専門学校 校長、全国柔整鍼灸協同組合 学術局長)
  - 高木 保子 (平成医療学園専門学校 統括長補佐)
  - 竹本 晋史 (平成医療学園専門学校 柔道整復師科学科長、全国柔整鍼灸協同組合 局長)
  - 内野 容子 (平成医療学園専門学校 鍼灸師科・東洋療法教員養成学科学科長)
  - 増田 順一 (平成医療学園専門学校 事務長)

#### 2 学校関係者評価委員会の開催状況

開催日：平成 28 年 5 月 7 日 (土)

開催場所：平成医療学園専門学校 4 F 役員室

#### 3 学校関係者評価委員会報告

別紙のとおり

以上

## I 重点目標について

今年度の医療専門課程では、柔道整復師、鍼灸師の国家試験合格率の低下、高校新卒生の増加と社会人の減少などの学生属性の変化など、本校の内部環境の大きな変化が見受けられる。

また、平成 30 年度には、柔道整復師・鍼灸師の養成施設のカリキュラム改定が検討されているなど、業界を取り巻く外部環境も大きな変化が予想される。

一方、文化・教養専門課程では留学生が増加し、超高齢社会を迎える日本社会では、医療福祉分野での外国人の活躍が期待され、外国人を受け入れるための受け皿の拡大ならびに教育環境の整備を強化している。

このように、本校を取り巻く（内部・外部）環境は大きく変化しており、学校としての教育理念や目標、そして育成人材像を見直す転換期として捉えるべきであり、これから迎えるであろう時代の変化を的確に見極め、これから本校に求められる教育理念や目標、そして育成人材像を再構築する必要があると思われまます。

外国からの留学生を受け入れることができる日本語学科を有する、柔道整復師、鍼灸師の養成施設であるということ、本校の独自性（強み）とする事業展開を期待したい。

## II 各評価項目について

項目	評価
基準 1 教育理念・目的 ・育成人間像	文化・教養専門課程日本語学科の留学生が増加している状況で、グローバル化をどのように進めていくのか、具体的な計画の立案ならびに実行が求められる。
基準 2 学校運営	常任理事会、教育課程編成委員会、学校関係者評価委員会、自己評価委員会の設置により、学校運営の機動性ならびに透明性が増しているが、各部門の情報を速やかに共有することが求められるため、IT 環境を活用することを検討してはどうか。
基準 3 教育活動	医療専門課程では、独自のゼミナール科目を設けたり、外部臨地実習での現場を経験する機会を増やし、実践的な技術を伝授する教育を強化し、職業への理解を深め、モチベーションを高めさせる活動は評価できるが、学習成果としての国家試験の合格率が低下しており、教育内容の配分・実施時期の最適化を図れるよう努めてほしい。 文化・教養専門課程では、日本語能力試験 N 2 への合格率を高める教育内容の充実を図れるよう努めてほしい。

項 目	評 価
基準4 学修成果	<p>医療専門課程の柔道整復師科、鍼灸師科の国家試験結果は、両科とも全国平均を下回った。近年、高校新卒の学生が増えるなど学生の質の変化が見受けられる。そのような学生に対して、国家資格取得へのモチベーションを高め、どのようにして学生のやる気を早期に高めるかの検討が必要であると思われる。</p> <p>文化・教養専門課程の日本語学科では、進学コースよりはじめての卒業生を送り出した。教育目標である日本語能力試験のN2に合格できなかった学生もいるが、それぞれが希望した進路へ進むことができたことは評価できる。</p>
基準5 学生支援	<p>学生の学力低下の対策として、授業以外での補習や個別指導を強化していることは、評価できる。また、スポーツトレーナー希望の学生が増加に対して、プロスポーツトレーナーによる勉強会の実施や、実際にトレーナー活動を経験できるスポーツ現場の確保など、学生のニーズに応じた支援は行えている。</p> <p>今後、留学生が増加傾向にあるため、住居やアルバイト紹介などの生活指導の充実が必要になってくるとと思われる。</p>
基準6 教育環境	<p>施設・設備・備品の老朽化対策は計画的に実施しているということであるが、設備等の不具合が頻繁に発生しているようである。</p> <p>学生の教育環境に関わる施設・設備・備品の整備を速やかに実施する必要がある。</p>
基準7 学生の募集 と受入れ	<p>スポーツトレーナーを希望する学生への対応は充実しており評価できる。</p> <p>高校新卒生の増加、社会人の減少、夜間部の減少など、学生募集の環境はここ数年で大きく変化している。それらの変化に対応する広報媒体やコミュニケーション方法のあり方を速やかに検討し実施する必要がある。</p> <p>日本語学科では、大半がベトナムからの留学生である。様々な国の留学生の在籍が、日本語教育上好ましいことから、ベトナム以外の留学生の獲得を強化する必要がある。</p>
基準8 財 務	<p>Webの情報公開ページで学園全体の財務状況が公開されているが、特に問題なく、財務状況は健全であると思われる。</p> <p>昨年に引き続き、財政基盤をより安定させるために行政や各種団体による、教育機関に対する様々な助成金や補助金の獲得を期待する。</p>
基準9 法令等の遵守	<p>教育機関として、法令遵守は当然のことであると考える。</p> <p>学校は公的要素の強い機関であるので、様々な法令等についての情報は常に収集し理解した上で健全な学校運営を行うよう心掛けてほしい。</p> <p>留学生の増加に伴い、不法在留者や不法就労者を発生させないように、日本語学科での在籍管理を適切に行う必要がある。</p>

項目	評価
基準10 社会貢献 ・地域貢献	毎年、学園祭では、学友会（生徒）が主体的に運営し、人と人がつながる社会貢献・地域貢献の様子が伺える。今年は、附属鍼灸整骨院の主催で、地域向けの健康セミナーを開催するなど、より地域社会とのつながりが増していることは評価できる。
その他 国際交流	ベトナムへの海外研修など、教員の資質向上にも役立ち、絶好の学術研鑽の機会と考えられ、海外の医療や文化・風習に触れることで、治療家としての自覚と見識を深め、自己形成の礎となることも期待できるため、継続的に実施すべきと考える。 その他の海外研修の実施についても検討すべきである。

### Ⅲ 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価結果は、外部から見る本校の客観的な状況として捉え、今後の学校運営を考える大切な情報であると認識している。よって学校関係者評価結果は、それらの内容に応じた部門で共有され、各部門会議（運営者会議、教務会、教職員会議、事務会議等）により、今後の課題の抽出や対応策の検討に役立てられている。

項目	評価
基準1 教育理念・目的・ 育成人間像	文化・教養専門課程日本語学科に関わる教職員を増員し、外国人を職員として雇用するなど、職場環境のグローバル化を推進する。
基準2 学校運営	学校内だけでなく、学園全体でのグループウェアの利用促進に努める。
基準3 教育活動	医療専門課程では、平成30年度からのカリキュラム改正に向けての対策プロジェクトチームを立ち上げ、教育課程編成委員会とともに、教育内容（カリキュラム）を検討し再構築を目指す。 文化・教養専門課程日本語学科では、教職員を増員し教育内容ならびに生活指導の向上を目指す。
基準4 学修成果	成績不振者へ、教育指導だけでなく生活指導も含めた、早期の対応に努める。
基準5 学生支援	ベトナム人留学生への支援を強化するためベトナム人の職員を採用する。
基準6 教育環境	大規模な中長期修繕計画案を立案する。

項 目	評 価
基準7 学生の募集 と受入れ	スポーツトレーナーセミナーを充実させ、スポーツトレーナー希望の学生募集活動を強化する。また、社会人の多様なニーズに対応するために個別相談の機会を増やす。 ネパール人の職員を採用し、文化・教養専門課程日本語学科へのネパールからの留学生を受け入れるための準備を行う。
基準10 社会貢献 ・地域貢献	大阪駅周辺地区帰宅困難者対策協議会に参加し、大阪駅に隣接する重要な地域に立地する公的施設（学校）として、社会貢献・地域貢献の在り方を模索する。
その他 国際交流	外部が実施する海外研修についても情報収集し、本校の教育理念目標に沿う内容であれば、学生へ案内することも検討する。

以上